

# こころま

第 49 号

題字は村上かおりさん書（脳性マヒ1級）水戸市在住



シンボルマークは  
川村 礼子さん作  
つくば市在住

発行 茨城県肢体不自由児者  
編集 父母の会 連 合 会  
発行日 令和6年9月30日  
事務局 〒310-0851  
水戸市千波町1918  
セキショウ・ウェルビーイング福祉会館  
029-243-3838



写真：大会式典（来賓祝辞）

## 共生社会の実現をめざして

茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 会長 御代川 栄子

今年の上半期は、気候変動がきびしい日々が続きましたが、皆様におかれましてはお元気でお過ごしのことと存じます。さて、6月29日(土)に関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会茨城大会を開催いたしました。無事に終了することができました。この日の為に、一年以上前から御協力をいただきました実行・運営委員はじめ関係者の皆様には心から感謝申し上げます。茨城大会においては「重度の障害があっても地域で安心して一生暮らせる社会へ」のサブテーマを掲げ、基調講演、パネル・ディスカッションを行いました。筑波大学教授 小澤温氏の「共生社会に向けた地域での相談支援体制」について①入所施設から地域生活支援拠点への移行②子ども支援をめぐるでは、子供への相談支援体制について、児童発達支援センターの機能強化等による地域の支援体制の充実が重要

であると講演されました。

兵庫県西宮市社会福祉協議会副理事長 清水明彦氏からは「親なき後の本人はどう暮らすか？」について、西宮市重症心身障害児者の親たちの「この子たちも一生懸命に生きていこうとしている」という信念に基づき展開された地域生活活動拠点「青葉園」での支援の輪の内容を中心にお話していただきました。茨城大会に於いても「住み慣れた地域での共生社会の実現」をめざして四項目（p6 決議文参照）を決議いたしました。実現に向けてこれからも邁進してまいります。今後とも関係機関の皆様方の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



この広報紙は共同募金配分金が使われております。



第61回

～茨城大会特集～

# 関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会

期 日：令和6年6月29日 参加者：165名 場 所：ホテルレイクビュー水戸

本大会は、関東甲信越1都6県から165名が水戸市のホテルレイクビュー水戸に集い、コロナ禍によりリモート開催されていた関ブロ大会が、5年ぶりに対面にて開催されました。



会場：ホテルレイクビュー水戸



受付



福祉の店

大会参加者165名をお迎えして大会式典が始まりました。



主催者挨拶 御代川会長



歓迎のこたば 荒井水戸市副市長



来賓祝辞 飯塚茨城県副知事

本大会は、『住み慣れた地域で共生社会の実現』～重度の障害があっても地域で安心して一生暮らせる社会へ～をテーマに関係者が集まり、福祉に関する社会啓発と共に、障害児者の権利擁護や自立・社会参加の意欲を高める活動支援、さらに地域での医療福祉などでの関係機関との連携構築を共に考える契機とするため、開催されました。

## 令和6年度 関ブロ連絡協議会会長表彰



4名の表彰者



表彰者代表 村松幸子氏謝辞



本県表彰者 沼尻由美氏

### 《令和6年度関ブロ連絡協議会会長表彰者》 「地域活動援助者」

つくば肢体不自由児者父母の会 沼尻 由美氏

今年度の関ブロ大会は、久しぶりの対面方式での開催となり、しかも地元の茨城大会での受賞ということでも緊張しました。息子を育てて25年になりますが、たくさんの方々のおかげで、支えられてきました。

今後も、地域の父母の会や県肢連の活動に力及ばずながらも参加し、精進してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。



## 「共生社会に向けた地域での相談支援体制」をテーマに、筑波大学 小澤 温教授をお招きし、基調講演が行われました。



講師  
筑波大学人間総合科学学術院  
教授 小澤 温 氏

### 〈活動歴〉

- 2011年 筑波大学教授
- 2015年 茨城県障害者施策推進協議会・障害者差別解消支援地域協議会会長に就任。
- 2021年 (公社) 日本発達障害連盟会長に就任。
- 2023年 厚生労働省・障害福祉サービス等報酬改定検討チームアドバイザーに就任。こども家庭庁・こども家庭審議会障害児支援部会委員に就任。

小澤教授の講演は、国の動向、現在どう検討されているのか、これからどういったことが検討されていくのか数字や制度の説明だけでなく、ルール化することでどういった事が懸念されるかについて語っていただきました。講演の内容は、1. 入所施設から地域生活支援への一連の流れ 2. 入所施設に関わる課題（意思決定支援、虐待）3. 子ども支援をめぐる 4. 相談支援と重層的支援体制 どのお話も大変勉強になりました。

今回の制度改正・報酬改定の議論では、理念的な考え方が加わるなど多くの変更点が見られたとのことでした。

事業者は、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮しつつ、利用者が自立した日常を営むことができる適切な支援内容の検討が必要となり、例えば、施設入所の方には地域移行及び施設外の日中サービス利用の意向を、親ではなく障害者本人に確認することなどです。「本人の意向を」と聞くと、反応はだいたい2つで、1つは「大切な事、望ましい」もしくは「そうは言っても無理だ」ですが、先生は「実はどちらも正しいものではなく、どうすれば良い意思決定になるのか考えなければならない。YesかNoかではない」と話され、運営基準や意思決定支援の課題と人材確保の難しさを学びました。

また、「相談支援と重層的支援体制」のお話では、支援体制は地域や個別問題ではなく、分野を超えた共通課題であるという事を強調されていました。

例えば、介護保険で対象となる老人の家を訪ねると、同居の家族がいて何の支援も受けずに家だけで介護をしていたケースを例に、障害のある家族を支える私たち親も支援が必要となり得ることから、制度や分野ごとの縦割りの支援体制や受け手の関係を超えて、地域住民・地域の多様な主体が「我が事」として、共通課題と丸ごとつながる「地域共生社会」づくりの必要性をお話いただきました。

小澤教授の講演を拝聴し、こうした同じ境遇の仲間たちとつながり、ともに学んでいくのが「父母の会」の重要な役割なのではないかと感じました。今後も、機会を得て、地域の仲間たちと小澤教授の講演内容を再学習したいと思いました。

# 「親なき後の本人はどう暮らすのか？」をテーマに、それぞれの立場から意見を出し合い活発な討議が行われたパネル・ディスカッション！！



会場全体風景



コーディネーター・パネリスト 清水氏



コメンテーター 小澤氏



パネリスト 尾坐原氏



パネリスト 齊藤氏



質疑応答風景



司会者 渡辺氏

## コーディネーター・パネリスト

西宮市社会福祉協議会 副理事長

清水 明彦 氏

## コメンテーター

筑波大学 人間総合科学学術院教授

小澤 温 氏

## パネリスト

茨城県 県肢連理事  
つくば自立生活センターほにゃら

尾坐原 由香 氏  
齊藤 新吾 氏

司会者 茨城県 県肢連副会長

渡辺 剛秀 氏

## パネラー 尾坐原 由香氏

2人姉妹の次女で31歳、肢体不自由（独歩は無理で手引きで歩行可）知的（最重度）の重複。ほぼ全介助の娘と夫と暮している。親の立場から、『娘を看取りたい』が、『親亡き後』は施設入所となるでしょうが、娘が『安心』できる暮らしが実現できるか、娘が自分の思いを伝えられない時に、その思いに気付く人の存在が必要、『人』どんな人が関わってくれるかが大事であると考えます。

## パネラー 齊藤 新吾氏

脊髄性進行性萎縮症の障害がある48歳。24時間の介助制度を利用して、つくば自立生活センターほにゃらで、自立生活をしています。地域で住み続けるため、できることを㊸サービスを利用して育てよう。㊹失敗しよう！㊺好きなことをしよう！㊻背負わない㊼依存に気をつける～母子依存と距離を取る～利用者・介助者互いの理解が必要です。

## コーディネーター 清水 明彦氏

西宮市社会福祉協議会が運営する「青葉園」の地域生活運動を進めている。西宮市の重い障害のある市民活動拠点「青葉園」は、西宮市独自事業として制度にとらわれず西宮市社協により開発的に運営されている。地域で生きていくための本人の地域自立生活（一人暮らし）の始まりとその支援の輪づくりに日々奔走中です。

## 筆者所感

『住み慣れた地域で共生社会の実現』～重度の障害があっても地域で安心して一生暮らせる社会へ～のテーマで、このパネル・ディスカッションは開催された。親の立場としての共感の出来る言葉の一つ一つにうなづきながら、親亡き後の我が子を託すべき地域・家族・施設を考えるのを先延ばしにしている……我が子の望む生活の実現に私達親の活動を結びつけたいと考える。

本人の立場としての意見には、社会を人材を巻き込んで、力強い言葉で「ぼく、わたしを信じて。ぼく、わたしに、ちゃんと生きていける力があるから」と、言っている。子どもの生きる力を信じて、母子依存と距離を取ることは大切です。

清水氏は、施設運営者の立場からの言葉であり、施設では「ここで死ぬ」と覚悟を持って支援している。の重い一言は、とても尊い。



# 全 体 会

前年度  
大会報告栃木県

本大会茨城県

次回開催  
神奈川県へバトンリレー



栃木県肢連会長 小林厚子氏



全体会会場風景



神奈川県肢連会長 光延卓真氏

本大会も大会式典、基調講演、パネル・ディスカッションと順調にスケジュールをこなし、大会最後を飾る全体会を迎えた。前回当番県の栃木県肢連小林厚子会長から前回大会の報告がありました。

栃木大会は「医療的ケア児者の普通の暮らしとは～ケの日も ハレの日も～」をテーマにオンラインによる開催となり、「当日視聴回数412回、アーカイブ視聴回数130回となった」との報告がありました。

続いて、当県肢連鈴木芳江理事から大会決議（案）が読み上げられ、満場一致で決議されました。

その後、大会旗が当県肢連御代川会長から、次回開催県の神奈川県肢連光延卓真会長への引継ぎが行われました。光延会長からは、次回神奈川大会は令和7年8月2日（土）横浜市のみなとみらい地区で開催し、共通テーマは『住み慣れた地域で共生社会の実現』で実施したい、との報告がありました。

前回の神奈川大会は、2016年7月26日に発生した日本社会を震撼させた知的障害者支援施設「津久井やまゆり園」殺傷事件の直後に開催しました。事件後の10月14日に県は、このような事件が2度と繰り返されないように、悲しみを力に断固とした決意を示す『ともに生きる社会かながわ憲章』を制定し、また昨年度には『県当事者目線の障害福祉推進条例』も施行されましたが、まだまだ十分であるとは言えません。県は「障害者の当事者目線に立つて」と言いますが、神奈川大会では「当事者目線とは何か？」などについて考えて行きたい、との抱負を述べられました。

## 情報交換会

## 豪華賞品が当たるじゃんけん大会



情報交換会風景



じゃんけん大会



閉会の言葉 古河市父母の会 大高滋氏

大会後の情報交換会は、講師・来賓等含め合計50名のじゃんけん大会が盛り上がり、優勝賞品の銚田メロンは茨城県の魅力をアピールしていました。自家製野菜（自宅郵送付）を景品として提供して下さったつくば肢体不自由児者父母の会 沼尻さんありがとうございました。食事しながら各テーブルでの情報交換は楽しく、時に熱く語り合いました。

筆者（船木）の席では、生活介護の日曜祝日の営業、朝夕の延長への希望、タクシー券1回の使用可能額、車椅子でも利用可能なみんなのトイレ等の話題で盛り上がりました。水戸市観光案内（車椅子ユーザー向けも含めて）もさせて頂きました。大会中、ケアルーム（救護室）で仲良くなった子供達と一緒に写真を撮り、来年の神奈川大会での再会を約束しました。

## 大会決議文

令和6年は、元日に石川県能登地方などに甚大な被害を出した「令和6年能登半島地震」が発生し、又、4月には障害者の生活に直結する「令和6年度障害福祉サービス等報酬改定」が3年ぶりに行われました。今般の障害福祉分野の支え手の減少やサービス事業所の経営圧迫により、利用者が必要なサービスを受けられない等の事態が生じないよう、必要な処遇改善の水準について、「障害者が希望する地域生活を実現する地域づくり」、「社会の変化等に伴う障害児・障害者のニーズへのきめ細かな対応」、「持続可能で質の高い障害福祉サービス等の実現のための報酬等の見直し」を基本的な方向性として検討され改定されました。

障害者施策は、2003年度に支援費制度が導入されて以降、重度障害者でも在宅生活が可能になるよう種々の制度に変更が加えられ、障害者支援のニーズの多様化にきめ細かく支援できるよう拡充が図られて来ました。

しかし、法律や制度が整備されても、実効性が伴わない制度では絵に描いた餅でしかありません。私たち障害者本人とその家族、福祉関係者が法律や制度の不備を指摘し、必要に応じて整備・拡充を訴え、ニーズに即したより良い制度になるよう、行動して行くことが重要であると感じています。

そして本日、ここ茨城において関東甲信越ブロックから肢体不自由児者本人とその家族、福祉関係者が一堂に集い、『住み慣れた地域で共生社会の実現』～重度の障害があっても地域で安心して一生暮らせる社会へ～をメインテーマとして熱心に討議しました。

今大会で発せられた声は、住み慣れた地域で共生社会の実現に向けた障害者本人、その家族、福祉関係者の真実の声です。この声を実現出来るよう、第61回関東甲信越肢体不自由児者父母の会連合会茨城大会の名において以下の事を決議します。

- 一. 親なき後も障害者が安心して暮らせるネットワークの構築および拡充を図ること
- 一. 肢体不自由者や重度障害者が安心して多様に暮らせるグループホームに関する法制度の整備を図ること
- 一. 医療的ケアの必要な障害者、重度障害者に対する緊急時ショートステイ事業所の整備・拡充を図ること
- 一. 令和6年能登半島地震に鑑み、大規模災害時の重度障害者等に関する一時避難、その後の二次避難、広域避難等に対する支援体制の整備・充実を図ること



大会決議文を読みあげる 鈴木芳江氏

令和6年6月29日

第61回関東甲信越  
肢体不自由児者父母の会連合会  
茨城大会



# 令和6年度 県肢連定期総会を開催 出席者31名

日時 令和6年6月4日(火) 10:00～ 会場 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館大研修室



定期総会風景

県福祉部障害福祉課長 森田教司氏と県教育庁学校教育部特別支援教育課課長補佐 會澤貴之氏を来賓に迎え、令和6年度の定期総会が開催されました。

森田課長からは、障害者差別解消法の一部改正に伴ない、茨城県障害者権利条例の適正運用を図り、「茨城県の障害福祉行政の発展に尽力

していきたい」との話がありました。

會澤課長補佐からは、ICT活用指導力を強化してゆきたい旨の話から、昨年度のEスポーツ大会に60名の参加があったこと、視線入力利用可の機器の利用により、個々のコミュニケーション能力が発達するように推進している。医療的ケア分野では、令和元年より看護職指導主事の配属を進めており、医師・PTの配属、各支援学校への指導にあたるセンターの設置を進め、連携を図り充実させたい話がありました。

定期総会は、多くの方々の賛同で無事終了いたしました。総会後には、関ブロ茨城大会の実行運営委員会も予定されており、大会まで1カ月を切っていたので、開催に関する質問も出ていました。関ブロ大会もコロナ禍の影響で、5年ぶりの対面開催となり、成功を願い、皆様の緊張も高まっていたと思われます。

## 令和6年度 研修委員会委員による施設見学 出席者6名

日時 令和6年8月29日(木) 視察先 (牛久市)一般社団法人 oluolu(オルオル)



専用車イスを使用しての浴槽設置・リフト利用の入浴可能な施設が充実しています。



個々の状態に合わせた居室内の備品の配置やベッドの高さが変えられるなど、配慮がなされています。

ひたちなか市障害児者育成会 尾坐原 由香氏

oluoluさんは、重症心身者が生まれ育った地域でいつまでも幸せにくらせるようにとの願いで親たちが設立した重度障害者グループホーム施設です。毎日の入浴支援、医療的ケア児者の受け入れ等、越戸代表理事を中心に頑張っておられる姿に感銘を受けました。緊急時の受け入れや制度のありかた等課題もまだまだあるとのことでした。当事者である父母の会としても、そのような課題を行政に訴えてゆかなければならないと改めて強く感じました。

東海村心身障がい児者親の会 門間 明子氏

牛久市にある一般社団法人olu olu(オルオル)の重度障害者グループホームを見学に行きました。施設は、重度障害のある方や医療的ケアが必要な方が車椅子などで生活できるよう広い廊下やトイレを備え、スタッフの負担も軽減するリフト付き浴室で毎日の入浴支援も行っています。スタッフさんと看護師さんが24時間滞在しているので、安心して家庭的な環境で生活出来る施設で、県内では数少なく斬新で凄いいました。

# 島原手延そうめん販売状況報告

8団体からご協力いただきありがとうございますございました。  
今後ともご協力をよろしくお願い致します。

そうめん・そば等 (円)			
売上金	支払額	各会への還付額	県肢連収益
A	B	C	A - B - C
1,312,200	922,060	174,120	216,020

## 茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 令和6年度下期行事予定表

月	日(曜日)	父母の会 肢体協 関係団体等行事
10月	7日(月)	広報委員会 (団体会議室)
	11日(金)	全国障害スポーツ選手団結団式 (県庁)
	17日(木)	茨城県障害者福祉の集い (龍ケ崎市)
	下旬	関プロ・第2回会長事務局長合同会議 (オンライン)
	26日(土)	全国障害者スポーツ大会 (佐賀県佐賀市) (~28日)
11月	8日(金)	全肢連地域指導者育成セミナー (東京) (~9日)
	18日(月)	理事会 (小研修室A)
12月	5日(木)	ナイスハートふれあいフェスティバル (~9日)
	7日(土)	ナイスハート発表会・美術展
	9日(月)	広報委員会 (団体会議室)
令和7年 1月	18日(土)	研修会 (ボッチャ体験交流) (多目的ホール)
	20日(月)	広報委員会 (団体会議室)
2月	3日(月)	広報委員会 (小研修室B)
	7日(金)	権利擁護センター関係機関連絡会 (中研修室)
	20日(木)	茨城県社会福祉大会 (ザ・ヒロサワシティ会館)
3月	3日(月)・17日(月)	広報委員会 (団体会議室)
	中旬	関プロ・第3回会長事務局長合同会議 (オンライン)
	25日(火)	理事会 (小研修室A)

### コラム

#### 「緊急一時って何？」

「緊急時の為にショートステイ等の準備を」～身近に起こった事例～

母親が緊急入院となり、緊急だと言っているのに、近隣のショートステイを利用出来そうな施設はすべて断られ、夜間も介護・看護体制のスタッフが整った県内の遠方施設が障害のある子を引き受けてくれた。支給者証の期限付き再申請も同時に実施した。

親たちが緊急時に備えて、我が子を預けられる施設の見学(例{ショートステイ}書類上の定数は10床だが、人手不足で2人の場合も)や複数契約の準備の必要性を、痛感いたしました。

### お知らせ

令和6年11月8日(金)～9日(土)に全肢連地域指導者育成セミナー(東京)に本年度は、古河市・境町が県代表として出席します。

令和7年1月18日(土)に第2回研修会「ボッチャ体験交流」があります。皆様の参加をお待ちしています。

### あ亡がき

今夏は、特に猛暑となり、遅い速度の台風の影響で各地が豪雨となりました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。今号は、茨城大会記念誌として、増頁してお届けしています。他県の方々の会話で、本県の福祉水準の低さを再認識したりと、有意義な大会でした。

広報委員長 軍司 明美